

質 問 書

2019年12月10日

「ヨルダン国ヨルダンにおけるシリア難民への平和の創出に係るインパクト評価」

(公示日:2019年11月27日/公示番号:19a00728)について、業務指示書に関する質問と回答は以下のとおりです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	16ページ「第4 業務実施上の条件 3. 現地再委託」 ローカルコンサルタントの業務量は3.2M/M 程度を目安とする」について	通常は、「サーベイ実施委託費一式の総額〇〇〇万円」と見積もると理解しております。そして、サーベイヤーの一日あたり単価×延べ日数の総額をその中に含めて見積もると理解しております。対して、今回のローカルコンサルタントの業務量3.2M/M はどのように見積もれば宜しいでしょうか。 (1)3.2M/M に人件費単価を掛けた金額を総額とみなして、サーベイ実施委託費一式の総額をその中に収める。 (3)3.2M/M の中で一人(あるいは二人)のローカルコンサルタントを雇用して実地でサーベイにあたってもらう。この場合、延べ96日×一日あたり訪問件数が、全体のサンプル数となると思料されます。	(1)のとおりでお見積りください。3.2M/M の中には、ローカルコンサルタント及びサーベイヤーの人件費双方が含まれます。
2	16ページ「第4 業務実施上の条件 3. 現地再委託」	ローカルコンサルタントとして、ヨルダン統計局が想定されておりますが、サーベイヤーもヨルダン統計局の職員を想定されておりますでしょうか。あるいはヨルダン統計局が雇用する人員(大学(院)生など)がサーベイヤーと	ヨルダン統計局が備上する調査員となりますが、どのような人員になるかは確認しておりません。

		なるのでしょうか。	
3	16ページ「第4 業務実施上の条件 3. 現地再委託」	再委託先としてヨルダン統計局を想定されていますが、コンサルタント人件費及びサーベイヤー人件費は支払いが必要でしょうか。	統計局職員がサーベイヤーを監督する形になりますので、双方の支払いが必要です。また、統計局を利用することで、センサデータ等が利用可能になります。
4	17ページ「第4 業務実施上の条件 5. その他」	イルビッド市での業務従事者の宿泊は、安全管理上認められていますでしょうか。またその場合、貴機構ご関係者は、実際に宿泊されていますでしょうか。	ヨルダン全土は事務所長渡航承認対象となっています。イルビッド市の宿泊は可能ですが、アンマンの宿泊及び日帰りでの現地調査を実施される方が殆どで、イルビッド市での宿泊実績はほぼありません。
5	12頁、「1. 背景・経緯等」7-9行目。	本事業「第二次北部地域シリア難民受入コミュニティ 水セクター緊急改善計画」はすでに終了していますが、①DAC 評価 5 項目を用いた事後評価はなされているのでしょうか。JICAのHPで検索した限りでは、そうした報告書はないようですが、実施主体となった国連機関やヨルダン側の事業完了報告書等があるのでしょうか。もしあるとしたら入手可能でしょうか。②また、本件インパクト評価では、定量的なインパクト評価に焦点をあてた調査のみで、本事業の有効性や持続性等についての分析や評価は実施しなくてもかまわないということでしょうか。あるいは、それらはすでになされており、それを前提として、定量的なインパクト評価のみを実施することなのでしょうか。	本事業「第二次北部地域シリア難民受入コミュニティ 水セクター緊急改善計画」は、実施中の案件のため、①事後評価はなされておらず、事業完了報告書等の資料はございません。また、②今次調査では有効性や持続性などのDAC評価5項目に基づいた評価はせず、定量的なインパクト評価のみの実施を想定しています。
6	(2)第一次現地調査	「ローカルコンサルタント(ヨルダン統計局を想定)」	ヨルダン統計局の職員をローカル・コンサルタ

		とありますが、統計局自体をローカル・コンサルタントとして雇用することを想定しているようにも思えますが、ヨルダン政府機関をローカル・コンサルタントとして雇用することは手続き上できるのでしょうか。それとも、統計局を経由して、ローカルコンサルコンサルタント(ヨルダン企業)を雇用することを想定しているのでしょうか。	ントとして雇用することを想定しています。手続きに際しては、必要に応じて事務所から統計局宛レターを発出する等の支援を行います。
7	(3)追加支援内容	「2019年10月現在、先方政府の急激な財政悪化により対応が困難となっていた各戸接続に関する追加支援を検討している(2019年から2022年にかけて実施予定)。」とありますが、これは「ヨルダン・ハシェミット王国北部のイルビッド県ハワラ地区において行った漏水量の削減及び給水圧の適正化を通じた上水道サービスの改善」(終了案件)の追加支援であり、本インパクト評価の対象は終了案件(「第二次北部地域シリア難民受入コミュニティ水セクター緊急改善計画」)のみという理解でよかったですでしょうか。追加融資についてのインパクト予測はスコープ外という理解で正しいでしょうか。	「ヨルダン・ハシェミット王国北部のイルビッド県ハワラ地区において行った漏水量の削減及び給水圧の適正化を通じた上水道サービスの改善」(終了案件)はフェーズ1として実施され、今回の対象案件は実施中のフェーズ2です。本インパクト評価は、実施中フェーズ2案件の追加スコープとして実施予定の各戸接続について調査する予定です。
8	(2)業務従事者の構成(案)	二人を想定しているということですが、三名で実施することが望ましいと考えられる場合には、そのような提案をすることも可能でしょうか。	可能です。
9	(3)業務工程(案) バーチャート	バーチャートでは、第1次現地調査の時期(目安)がラマダン時期に重なっているのが避けたいと思いますが、その場合、ラマダンの前ないし後のいずれが望ましいでしょうか。	前後どちらでも問題ございません。

10	同上	第 2 次現地調査はコンサルタント全員が再訪することが望ましいのか、あるいは、総括(ないし担当者)1名で実施する提案、ないし、第 2 次調査をローカルコンサルタントに委託する提案も可能でしょうか。	ローカルコンサルトの調査のクオリティ管理のためにも、少なくとも 1 名は第二次現地調査として再訪いただくことを想定しています。
----	----	--	---

以 上